

全 仏

NO. 203

12 / 49



長谷のみ仏

十二月七日、それはちようど第二十二回仏教徒会議が行なわれた翌日のことであった。全仏事務局一行十五名は奈良の長谷寺に御招待をうけ、参拝する機会を得た。

未だ少し早い紅葉の山々に囲まれてそそり立つ御本堂、その中にまつられてある御身の丈十以上あるろうと思われる十一面観音菩薩像をその足元から見あげた時、唯々感激の思いで胸が一杯であった。

この五濁悪世、末法といわれる時代に、汚れに汚れきった心の中に一筋の光をみせていただいた気がして思わず合掌し続けた。

五月になると長谷寺の境内はぼたんが埋まり、この花の美しさにひかれて参詣の人々が多勢こられるというが、それにもまして美しい観音様が参拝出来たことは一生の思い出となることだろう。

(M・T)

(写真は川崎大師で遍照講京神地区の人々の救ライ募金運動)

昭和49年12月1日

第22回全日本仏教徒会議

大来佐武郎氏が基調講演

危機打開へ大会宣言

第二十二回全日本仏教徒会議は、十一月六日、参加者四百五十人を集めて、京都知恩院和順会館を会場に開催された。今回の会議の核は人口問題であったが、午前中の基調講演に人口問題の権威者大来佐武郎氏を招き「人口問題について」の話を聞いたのち、午後からは宗派代表者会議、シンポジウム、仏青代表者会議、仏婦代表者会議とそれぞれに分れて討議が行なわれ、声明書、決議文、宣言文が大会参加者全員一致で採択された。

声明

環境の破壊と人口の爆発など生態学的な終末感がひしひしと現代人の上に重苦しくのしかかっている。核均衡による平和もボタン一つで地球を破壊させる可能性を依然としてもっている。仏教には「末法」という終末観があるが現代は正に五濁悪世といえる。生命はそれ自体に価値

があり、それ故にこそ精一杯生きる権利を持つていて考えるのが、仏教の立場である。人間が獲得した高度な科学技術文明は、やがて地球上の一切を人間中心に再編成することも可能であるとする傲慢な意識が、今日の人類の危機を招いていることをわれわれは深く反省しなければならぬ。人間がたとえ地球生命系の管理者としての地位を得たとしてもその責任の重大さを忘れてはならない。人類危機の一つの問題として取り上げられている人口問題の解決は社会開発と福祉政策を優先させることが先決である。仏教はあらゆる生きとし生けるものの生命を尊重することを本旨としている。即ち不殺生の戒律がそれである。しかしながら、地球の大きさの有限性と、その上に生きる人間の生存と活動の限界を考慮すると、生れ出た生命は飽くまでその尊厳を守りつつも将来の人口増加を抑制するという技術開発に期待せざるを得ない。

うものである。

昭和四十九年十一月六日

第二十二回全日本仏教徒会議 宗派代表者会議

決議

一、われわれは人類の危機を救うため仏教の根本義によって環境、科学技術、生産等の再編成に最善の努力を惜しまない。

二、われわれは福祉政策の優先を強く支持し、また正常な経済体制の確立に寄与することを期す。

三、われわれは飽くまでも生命の尊厳を守りつつ、社会的立場に立って人口問題の解決に努力する。

四、われわれは核による人類滅亡のコースを永久に凍結することを期す。

右決議する

昭和四十九年十一月六日

第二十二回全日本仏教徒会議

宣言

自然は人間の奴隷であるとする傲慢な考え方に立った近代思想は、人間の英知を機械文明に売り渡し、そして仏心を奪い去ってしまった。生産力、科学・技術が一体となることよってのみ人間の欲望と幸福が満たされるとした思想は、今や自然の摂理の前にもろくも崩れ去ろうとしている。

われわれ仏教徒は、価値ある存在として生き抜くため、科学的知見を踏まえつつ、仏教の根本義に迫り、もって不安と危機感にとらわれた現代人を救うべく、自ら範を垂れ、一切のエゴイズムを克服して栄光ある人類の道を開くことをここに固く誓うものである。

右宣言する

昭和四十九年十一月六日

第二十二回全日本仏教徒会議

仏青代表者会議

新生仏青誕生

全日本仏教青年代表者会議は、十一月六日午後一時五分より、知恩院下の源光院一階広間に、各宗各団体の仏青代表六十余名を集めて開催され、特に新生仏青のスタートらしく、活発な意見の交換がなされた。

会は全日仏青設立準備委員長井桁氏の司会進行で開幕され、設立準備委員長増田貞田氏が挨拶し、ついで全仏国際文化局長清胤徹昭師が、全一仏教運動の実践は空論であってはならない、今日新仏青の誕生にあたり、仏青として、本来あるべき姿勢を示してほしいと激励の挨拶をなした。

引続き議事に入り、議長選出は司会者に一任されたので、司会の井桁氏から



源光院の広間で開かれた仏青代表者会議

全日仏青OBで、東京ブテイストクラブ委員の山田一真氏を指名、副議長に神奈川仏青の摩尼和雄氏が指名をうけ、万場一致承認された。山田議長挨拶のあと「仏教青年会の全国組織をつくろう」のテーマのもと議案の審議に入った。なお議事録作成に井桁雄弘氏、署名委員に兵庫仏青鍋島氏、奈良仏青梅丸氏が議長より指名された。議事は次のとおり。

- (一) 全日仏青設立準備委員会の経過報告について
井桁氏より詳細にわたる報告がなされ、前の会の名称は残っているのか等の質問があったがそれは今日解消するとの答弁によって了承された。
会則の審議について
会則の審議は、条文毎に審議された。
名称は、全日本仏教青年会（ゼンニッポン）とし、英語名は、オールジャパンヤングブテイストアソシエーションとすることとした。
事務局は、全仏内に設けてほしい旨の意見もあったが、即答しかねるので、清胤局長から後刻相談して回答することとした。
また、年齢制限については、発足の時なので制限はしなかった。下部組織独自の年齢制限でやってゆきたいとの事務局側の回答で了承された。
- (二) 目的及び事業については原案通り可決された。
- (三) 組織については、本会は個人加盟でなく、団体加盟であるということを再確認した。
- (四) 役員については若干原案修正のち可決した。
- (五) 会議、財務及び諸機関について
もそれぞれ了承された。
- (六) なお、この会則は昭和四十九年十一月

六日より発効することとなり、次の議案に移った。

ここで議長が副議長の摩尼氏と代り、全日仏青「信條」「綱領」が京都仏青長沢氏より朗読され、夫々字句訂正ののち可決、宣言決議文を朗読して、一同力強い拍手でこれを了承可決した。

役員の選出について原案を事務局より提案され、原案通り次の各氏が新全日仏青役員として万場一致承認をうけた。

- 新理事長 増田 貞田氏
- 副理事長 竹田 英吉氏
- 同 摩尼 和雄氏

なお他の役員については後日の総会で選出することが申し合わせられ、会は午後五時すぎに全仏組織専門委員新聞信師の祝辞を以て閉会となった。

仏婦代表者会議

各々近況を報告

十一月六日、知恩院三門前の和順会館で、全日本仏教婦人連盟（山本杉理事長）も代表者会議を開きました。大谷智子会長、一条智光副会長、岡野貴美子副会長方が都合で不参加でしたが、道明寺六条照瑞門跡をはじめ各地区より技ぎの代表者六十名が出席しました。

午前中、知恩院本堂における開会式に参列、和順会館における大来佐武郎博士の人口問題に関する基調講演を拝聴、昼

食後三階の大広間に席をうつし、仏婦水いらずの会合を持ち、一年ぶりの再会にお互いの健康を祝しあい、それぞれの近況を報告しあいました。

午後一時半から大森曹玄花園大学教授の「禪」についての講演を聞きました。大森老師は、念仏も題目も三昧に唱えればそれは坐禅の三昧と同じである。世界の文化は崩壊寸前にあるが、日本の仏教文化はこれを救う。日本人が本当に日本を理解し、自信をもつてのぞめば、自

から道は開けると、世界の文化人の証言をあげて力強く話されました。また「一多相即相入」、これこそが結論で、個の中に全部が含まれ、全部の中に個が生きていると、図解をしながら、わかりやすく説明されました。

全一仏教運動を旗じるしに二十二年、その代表者会議にふさわしい講演を拝聴し、二十二年目への決意を新たにしました次第です。終って閉会式に出席、各代表の会議報告を聞きしセブションに参加、和順会館二階に泊めていただきました。

翌七日は早朝の知恩院の晨朝に参列、岸信宏門主親下のお導師による厳肅な朝の儀式に身も心もひきまされる思いでした。

朝食を早めに戴いて名刺巡拝のバス観光に出発しました。最初はすぐそばの智積院（真言宗智山派総本山）で、宝物を拝観後、書院で竹村教智能化にお目にかかり、別所弘因宗務総長よりいろいろお話をうかがい一同夢供養の寄進を行って次の妙心寺（臨濟宗妙心寺派総本山）



写真は基調講演をされる大来氏

「人口問題について」

大来佐武郎氏の講演要旨

(一)

ただいまご紹介いただきました大来でございます。私は本職が経済の方でございます。日本の経済の所得倍増企画とか、経済白書だとかいうものを役所で手がけておりましたけれども、十年前に役所をしりぞきましてから国際会議等によびだされまして、だんだんと間口をひろげるようなことになったわけでございます。

人口問題というものも考えてみますと人口が多いか少ないかというのは何に比べていうのか。食糧にくらべて人口が多いのか少ないのか、あるいは資源または環境に比較してなのかということになりますので、人口問題を論議いたしますと、この資源の問題、食糧の問題、環境

へ。名調子の案内人に説明を聞きながら宝物を拝観、法堂の狩野探幽の『雲龍』に感動して隣りの花園会館へ。一転して近代的なこの会館で精進の昼食を戴きましたが、点心棒と書かれたすりこぎの箸入れに一同興をおぼえ、これを分けて頂いて、代表者は梶浦逸外管長に御挨拶。明日インドにご出発の管長でしたが、快くお会い下され、時間があつたら皆さん

にも会いたいなあと、元氣な管長さまでした。

次いであこがれの弥勒菩薩にお目にかかるべく太秦の広隆寺へ。相変らず不思議なエミをたたえたこの像は、いつ拝見しても心のなごむ見事なものでした。時間に余裕がありましたので、嵐山の紅葉も拝見と、天竜寺(臨濟天竜寺派総本山)へ廻りました。渡月橋はウィークデ

ーというのに満員で、河原にも人が一杯。お陰で天竜寺も満員で、庭園の中も人々々。これでは禅刹の静かな趣などがうべくもなく、早々にバスへ。バスで嵯峨野を一巡してから、京都駅へつきましたのが四時、ここで解散して、来年の兵庫県仏で開かれる神戸での再会を約してそれぞれが家へと向いました。

(この項仏婦役員記)

の問題が当然関係してくるわけです。私も、一昨年スウェーデンのストックホルムで開かれた国連の人間環境会議にも出席し、また今年の八月にルーマニアのブカレストで開かれた国連の人口会議にも出席いたしました。これは非常な大会議でございます。世界各国より三千名の代表が出席したわけですよ。

国連の人口会議というのは、今迄に二回、大体十年ごとに開かれたわけですが、前の二回は専門家の会議でございましたので、それほど世間の注目を引かなかったのですが、この度初めて政府代表の会議ということになったわけです。昨日から、ローマで開かれております世界食糧会議もこれに似たような会議でございますが、一九七〇年代になりました。ストックホルムの環境会議、ブカレストの人口会議、今度のローマの食糧会議、あるいは今年の暮から夏にかけてニューヨークで開かれた国連特別総会、これは資源問題についての世界会議ですが、さらには南米のカラカスで開かれました海洋会議など、世界全体に関係した会議が

あいついで開かれるようになりました。これは、一九七〇年代に入ってから新しい世界の動きだろうと思えます。

従来人口とか資源とか食糧とか環境に関して学者の間では色々議論がなされておりましたが、世界各国から政府の代表を集めて大会を開くということは、最近になって新しく始まったことでございます。これは、なんといっても、人間が世界の有限性を感じるようになったからだと思います。地球という天体は有限である。その地球の表面積には限度があり、その中の陸地は有限である。また、資源、地球をとりまく薄い層—これが適当な温度と水分をもっており、この中に人間始め色々な生物が住んでいるわけですが—これらの有限性を改めて考えるようになったわけですよ。

私共は、これをポストアポロ時代というような言い方をしております。つまり、宇宙船アポロが月に上陸し月の世界から地球を振り返ってみると、一つの空に浮かぶ天体である。その上に何十億かの人々が住んでいるということを改めて見るようになった。こういうものの考え方によって、人口問題、食糧問題、資源問題、環境問題等をグローバルな、全世界的な問題として見直すようになってきたのだと思います。人口問題は、子供を何人うむかという家庭の問題が土台でございますが、それが人口政策というような国の問題となり、さらに最近、世界の問題である意識されるようになったわけでございます。

人口問題で数の増加をいうことを振返つてみますと、今から三百年程前は地球上に五億人の人間が住んでおりました、人口増加は年に〇・三%位でございました。よく専門の方で倍増期間、何年たったら人口が倍になるかという数字を使いますが、年の増加率で七〇を割りますとだいたい倍増期間になるわけです。ですから、今から三世紀位前の世界の人口増加が〇・三%ということは、七〇を〇・三で割りますと、二三〇〇四〇年で世界の人口は倍増するということになり、わりあい緩慢にふえていたわけでございます。

その後、医学の進歩、科学技術の進歩、経済の発展がございまして、急速に人口の増加率が高くなりました。世界の人口は年に二%の割合で増加しておりますが、今の式を使いますと、約三五年で人口が倍増するということになります。一九七〇年の世界の人口が三六億人、日本は一億ちょっとですが、これが来年には約四〇億になるだろうと予想されております。三六億が年に二%ということは、一年間に七千万、四〇億になれば年に八千万の人口が世界でふえる、つまり、毎年日本位の人口が世界でふえるというわけです。

国連の推計によりますと、大体紀元二千年、今世期末には世界の人口は六五億から七〇億になるのではないかと予想されております。三〇〇年前には五億の人間が住んでいたわけですが、近いうちに七〇億という人口になってまいるわけ

でございます。これは、人口増加のスピードが加速していることですが、日本の場合には、一頃人口が急にふえましたが、最近では人口の増加が落ち着いてきております。これは、世界的に言えることですが、貧乏な時代には多産多死、多く生まれるが死ぬのも多いため、人口がそれ程ふえない。つまり、停滞人口であります。日本の徳川時代がそうであったわけでありますが、近代化が始まり経済の発展が始まりますと、医療の発達もありまして死亡率が急にさがり、一方出生率はあまりさがらないため急激な人口増加、人口爆発ということになります。

しかし、ある期間たちますと、今度は出生率の方もさがってまいります。これは、学校に行く年限がのびるとか、子供の数を減らしてよく育てるという意識が出てくるためですが、出生率がさがり、少産少死の安定人口に達する、これが人口学者の一般的原则とされております。こういう多産多死から人口の激増期を経て、少産少死の段階にはいる。日本やヨーロッパ諸国やアメリカ等は、だいたいこの少産少死というところに来ているわけですが、世界の貧しい国々はこの人口が急に増加する爆発期にあたっておるわけでございます。

貧しい国々ではDDTとかマラリヤ撲滅の薬が普及しまして死亡率が急に下がったわけですが、出産率を下げるというのはそう簡単ではない。夫婦の問題でもあり、政府の命令で下げるべき性質のものでございませぬので、このままでま

りますと世界の人口があまりにも急激にふえすぎて、それを養うことが非常に難しくなってくるのではないかと、このような心配が世界各国の専門家、学者の間でもたれるようになりました。これが、国連の人口会議政府代表による人口会議の開催というものの背景になったわけ



愚空天周円書刻
阿吽の二巻 拓本篇
一揃帙入装 解説篇

発刊以来、仏教界の最高権威者たる諸先生より御推薦を忝い、パリ大学等の欧米一流大学からも認められた稀覯梵字書範です。信仰合掌礼拝の対象である「梵字種子」を觀感菩提の「文字仏」として端麗莊嚴の美的表現を念願し書道芸術と石彫技術とを融合し、恭敬拜書謹刻更にそれを拓本として、その運筆、書順、切継等に至るまでその書法を一目明快、清楚簡潔かつ巧妙に表象せる点が、類例のない労作！「一寺一本必備の梵字宝典」永年の御愛蔵を乞う。

山梨県中巨摩郡敷島町長塚一五八の三石造形芸術院主宰三井英俊
東京連絡所(七二二)六九八六

パングラディシユの孤児に愛の手を!!

パングラディシユは、印パ戦争の影響や、モンスーンなどの天災によって、大きな被害をうけ、おびただしい難民に混じって、幾多の孤児が飢えと病いに苦しんでおります。

ダツカに在る「仏教孤児院」には目下四百名に上る孤児が收容され、仏教教育をうけりハビリテーションを通じて、社会復帰に努力しておりますが、日常の食糧、衣類、薬品にいまなお相当の欠乏を見ております。同じ仏教徒として彼等の窮状を黙視し得ない現状であります。

何卒これら幾多の孤児救済のために、皆様の善意を伝達いたしたく、救済資金の募集をいたしておりますので、御協力下さるよう伏してお願ひ申し上げます。

- 一、目的 パングラディシユ国ダツカ市在、アガラタナ 仏教孤児院に対する救 援
- 一、送金 東京都台東区西浅草一先ぎ 一五―五(財)全日本 仏教会国際局 振替東京三七六〇〇番 一、主唱 (財)全日本仏教会

(1) はじめに

第二十二回全日本仏教徒会議は、去る十一月六日、京都知恩院和順会館を会場に加盟団体の代表約四百五十人が集合して開催された。昨年の会議も従来のような大会形式をやめて代表者会議とし、宗派代表者、地域仏教会代表者の両会議を中心に環境問題に関して仏教徒は何をなすべきか、また何が出来るかを話し合った。要するに人類の危機が深刻に迫っている現況を分析して仏教の精神をその危機回避に役立てようとするのが会議の目的だった。若干の具体的な行動計画も提起されたが、その後必ずしも活発な運動が展開されたとは言えない。しかし、われわれを取り巻く現在の環境が如何に人類の未来に取って好ましくないものであるかを痛感し、認識する機会となっただけでも効果があつたと思われる。ややもすると、仏教界は社会の問題に疎いのだから。

さて、今年の代表者会議であるが、昨年同様、「人類の危機を救おう仏教で」の大スローガンを掲げて宗派代表者会議、それに人口問題をテーマとするシンポジウム、そして仏婦、仏青の四つの会議を持った。仏青は、熱心な準備作業を重ね、この日「新生仏青」が誕生して初めて全国的な組織が結成されたし、仏婦もまたそれなりの成果を挙げたと思わ

人口問題に成果

仏教徒会議を顧みて

れる。「宗派代表者会議」は何しろ加盟団体の代表的権限を持つ人々の会合だけに、実は目玉商品である。しかしそれだけに発言も慎重であり、一面俗界の出来ごとには超然とした態度の姿勢も見られないわけではないが、金子議長議事の運びのよるしきを待て声明に見られるように、人類の危機についての分析も可成り正確に行われ、人口問題についての仏教の立場もある程度明確にされたのは大きな成果である。

昨年度から始められたこの宗派代表者会議は一面各宗派の親睦を深める意味で

非常な関心をもって迎えられた。人口の爆発的増加は人類の未来に取って放置できない重大な問題であり、これが抑止については世界が挙げて取り組んでいる。去る八月十九日から三十日まで、ルーマニアのブカレストで開かれた「国連世界人口会議」では、百三十五カ国の代表と国際専門機関の関係者が参加して激論を闘わし、一応微温的ではあるが行動計画を採択した。この会議にわが国の代表の一人として出席した大来佐武郎博士を招いて、この世界会議の報告を中心に、人口についての問題点と、世界各国のそれぞれの態度の説明を受けた後、シンポジウムの形で参加者の意見発表が行われた。

妊という点は適切な技術開発を期待してこれを採用し、問題の解決を図るというにある。このことは所謂カソリックのような教義派的立場ではなく社会派の態度であるが、この問題は近視眼的に取扱うべきではなく、仏教徒としては更に掘下げて検討すべきであるとして「全仏」内に研究会の設置が提案され採択された。

(3) 福祉政策と核散禁止

従来の仏教徒会議はややもすれば仲間擁護の議案、従って対外的告発の事案に乏しかった。今回の宗派代表者会議の声明および仏教徒会議の宣言、決議には環境、科学技術、生産機構に関するアセスメント、あるいは福祉優先の政治経済の確立、それに核拡散防止など、人類危機に直面して提起されている現実の問題に強く仏教徒としての態度を打出したことが注目される。ただ要は、こうした考え方を日ごろの実践にどう結びつけてゆかが問題である。近く各宗派の教化担当者会議も開かれることでもあり、仏教徒会議の宣言決議の趣旨を踏まえた布教伝道と、その精神を市民運動にまで盛り上げてゆく実践活動の展開が何よりも肝要である。

ともあれ、仏教徒会議も井の中から飛び出して現実の社会問題に仏教の果すべき役割を真剣に考えようとする意欲が漸く表われて来た。この意味で今度の会議を高く評価していいのではないか。未だかつて靡みられなかったジャーナリズムも多大の関心を持ってこれを迎えたことでも明かである。

(真溪義貫)

WFBユネスコ委員会報告

WFBユネスコ委員会は、過ぐる六月二十日・二十一日にバンコクにおいて開

ふたごの仏事

浅草の歳の市



と上野の山下 寺前、稲荷町 原町、東本願 広小路から田 づき、さらに

市帰りオンマカキヤラをそと出し という古川柳がある。オンマカキヤラは大黒天の真言である。浅草寺では

大黒」ともいい、これを米びつに貼っ ておけば、米に不自由しないとか、神 棚にまつて供養すれば目上の引立て を得るといふ古来からの俗信があっ た。

浅草の歳の市は観音市ともいって、 往古は観音本堂を中心とした境内は勿

十二月十七日午前六時半の 晨朝動行時に大黒天御影の お加持があつて、法要後、 札幌で歳の市の二日間(十 七、十八日)お札が授与さ

まで屋台店が続いたというからさぞ賑 ったことであろう。「産塚談」に 「浅草観音の市」諸人正月の飾り物 吉凶を祝ひ、此市にて求むる事なり。 外に江戸に市なし」

とあるから、宝暦前後の頃までは、 歳の市といへば浅草に限ったのであ る。元禄時代には諸大名、旗本、大店 むきは、毎年吉例として家人数名に革 羽織を着せ、用心等や長持をかつかせ て浅草に練りこみ、正月の用品をそれ ぞれの店で購入するのが慣例になつて いた。

浅草の二日は江戸の台所(古川柳) かなうな歳の市風俗も、昭和時代に なつてデパート、商店街の売出しに押 され、殊に戦後は歳末の大売出しがク リスマスセールに続いて長い行事とな つて、年々衰微の一途をたどり、境内 の市も江戸末期から流行し始めた押絵 羽子板に重きをおくようになって来 た。現在では、歳の市が羽子板市に変 り、五百ほどの屋台店が境内をうすめ 往時を凌ぐ賑わいをみせている。 【写真上は本堂前の羽子板市と下は ガサ市風景】

のように会議報告がもたらされた。

- 一、WFBユネスコ委員
- R・L・ソニ博士(ビルマ・仏教討論 会グループ推薦) S・P・ゴータム 氏(インド・アソカ教会推薦) スリ
- ・ナライン・チャンド・パラシャル

- (インド大菩提会アソカミッション推 薦) 村野宣忠氏(全仏推薦) リー
- ・キイ・ヨング教授(韓国曹溪宗推 薦) ティ・ケオルオン・コット氏
- (ラオスWFB支部推薦) リー・シ
- オン・マング氏(マレーシアWFB支 部推薦) ピット・チン・フィ女史(シ
- ンガポールWFB支部推薦) L・G・
- ヘワゲ教授(スリランカWFB支 部推薦) ウィバ・セナン女史(タイ WFB本部推薦) K・Kタイラ博士
- (アメリカWFB支部推薦) ティッ
- ク・ミン・チャウ氏(南ベトナム・大 乗仏教協会推薦) の十二名のほかに、
- つぎの二名は出席の際ユネスコ委員と して扱われる。
- プーン妃殿下(WFB会長) ウ・チ
- ヤン・トン(WFB名誉会長)

二、ユネスコ対策委員会

- WFB本部は、六月二十日つぎの十一 名をユネスコ対策委員に任命した。
- 村野宣忠(全仏) コット氏(ラオス)
- フィ女史(シンガポール) ヘワゲ教 授(スリランカ) セナン女史(タイ)
- イ) チャウ氏(南ベトナム) 清胤徹昭 氏(全仏) 松壽弘道氏(全仏) ティ・
- ティン・チュリー氏(マレーシア) スタ
- ンレイ・ウィリアム氏(スリランカ)
- 宮原砂男氏(アメリカ)
- 三、事業方針
- ユネスコ委員会は今後の事業方針を大 要、左記の如く決定した。
- 1 仏教僧侶の再教育
- 2 仏教ユネスコ青年指導者の養成

昭和49年12月1日

3 仏教文化の推進

4 成人教育の推進

5 人権問題、人口問題、資源問題、公害問題及び婦人問題の研究

6 科学と仏教との関係の研究

7 平和維持精神の普及

四、マララセーケラ奨学資金

ユネスコ委員会はマララセーケラ奨学資金募集について各国のWFB支部が協力すべきことを申合わせた。

マララセーケラ奨学資金は去る一九七三年四月二十三日七十一歳を以て逝去したWFB創立者マララセーケラ博士の功績を伝えるためにWFB教育文化常任委員会委員長ヘイワケ教授の提案によって設立されたもので、WFBユネスコ委員会はその資金の収支に関する討議を一九七三年八月のWFB常任理事会から付託されていたが、現在迄の収入は香港仏教会から一〇〇弗、シンガポール仏教会から五〇〇シンガポール弗の寄付があっただけで収支の問題を論及する段階に至って居らず、各国のWFB支部の協力を求める決議をなすに止めた。

五、世界仏教文化セミナーの開催

ユネスコ委員会は来る一九七五年バンコックに於て開催されるWFB二十五周年記念総会の終了後七日間にわたり世界仏教文化セミナーを開催すること、及びこの開催に関してユネスコ本部に対して援助を申入れる案を可決した。

尚このセミナー開催の費用としてWFB本部では約二万五千弗の予算をたてているが、ユネスコ本部のみならず他の諸

種の国際団体にも援助を求めている。セミナーに於ける講演の演題は次の通りであり、講師は未定である。

1 文化の定義

2 仏教文化の定義

3 仏教文化史概説

4 テーラバータ仏教文化史概説

5 大乘仏教文化史概説

6 自由主義国家群に於ける仏教文化

7 社会主義国家群に於ける仏教文化

8 仏教遺跡及重要文化財の保護の問題

9 仏教文化の育成と弘報の問題

10 国際連合の理念と仏教文化の関係

尚同セミナーにはユネスコ、パリ本部、東京ユネスコ、アジア文化センター、バンコックユネスコ支部其他アジア各地に於ける国際的文化団体の代表を招待する予定とのことである。

六、現代人のための仏教概論の出版

ユネスコ委員会は事業計画のうち特に科学と仏教との関係の研究に關し次のことを決議し、関係学者の協力を要請することにした。

1 現代の科学知識に対応するものと

考えられる仏教の教義を蒐集する。

2 科学の限界を研究する。

3 先進国が人間の飽くなき欲望のために陥つた公害の実状に鑑み、発展途上国に於ける科学技術の導入の程度を研究する。

4 現代の科学知識及び現代人の日常生活に絶えず連関を保ちながら述べられる仏教概論を作成しこれを出版する。

七、英仏両語を公用語として採用

ユネスコ委員会はケオ・ルオン・コト氏の提案により英仏両語をユネスコ委員会の公用語とすることを可決した。

八、常任委員会の資格

ユネスコ委員は今後常任委員会の資格を持つものとし、他の常任委員会と同様WFB総会の際に合を持つものとすることが決議された。

九、プーミバロ比丘財団の件

ユネスコ委員会はタイ国の古文書をタイ語その他の現代語に翻訳する事業を主要事業とするプーミバロ比丘財団がユネスコ本部に対して五〇五万弗の援助金下付を申請する提案を可決した。

本財団はタイ国内に散在する古文書を蒐集し既に蒐集されたものを加え、これをタイ語その他の現代語に翻訳し、更に国際仏教図書館を建設してこれらの文書を取蔵する計画を樹て、既にその第一期事業として約三、二〇〇頁の図書の刊行に着手しているという。

当財団の名称は現国王プミホン陛下の比丘名である。尚当財団ではビルマ仏教会がビルマ文字の経典編集及び仏教会議開催に対する援助金として三千五百万弗をユネスコ本部から下付されているのであるから、タイ国の当財団に対して僅か五〇五万弗の援助金は実現可能であろうと見ている。

当財団はWFBとは別個の存在であるが国王も出資して居りタイ国仏教会とは一体不離の関係にある。プーン殿下はユネスコ会議の発会式の挨拶にWFBはタイの古文書のタイ語訳を計画していると発表した。この表現はWFBとタイ国仏教会とが一体であり、タイ国仏教会とプーミバロ比丘財団が一体であることを意味している。更にWFBユネスコ委員会なるものもタイ国仏教会がパリーのユネスコ本部から金を引出すために使用する名称であるともいえる。

WFBの会長はプーン殿下である。副会長はビルマ、ドイツ、スリランカ、マレーシア、蒙古、シッキム、シンガポール、タイ、米、ソ連、日本、及び韓国に各一人置いているけれどもほとんど有名無実である。タイのサンヤ首相は副会長となつている。シンガポールユネスコ委員ビット・チン・フィ女史は副会長でもある。米国の副会長は宮原砂男氏で、宮原砂男氏は同時に常任理事でもある。WFBの常任理事国は職權上有資格国であるタイを除く外は日本、米、スリランカ及びマレーシアの四ヶ国のみである。

事務総局録事 (十一月)

六日 仏教徒会議 知恩院

十日 増上寺大本堂落慶出席

十三日 真言宗醍醐派管長晋山式出席

十八日 日宗連理事会

二十一日 局内会議

二十九日 常務理事會 東本願寺會館

宗務總長會 宗務總長會

三十日 教化担当者會議 花園會館

昭和四十九年十二月一日発行
十二月号 第二〇三号

發行人 榎井大乗
編集人 清胤徹昭

發行所 財団法人 全日本仏教会

東京都台東区西淺草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話〇三(八四三)六三三 四一、三